

1 インダス文明



高さ10cm
青銅製

● **踊子** モヘンジョ＝ダロ出土。容貌と腕輪からドラヴィダ系と考えられる。

● **モヘンジョ＝ダロ** 1922年、インダス川下流の西岸(パキスタン)で発見。「死の丘」の意。1.6km四方にわたる計画都市で、縦横に走る道路、レンガ造りの公共施設、住宅があり、街路には下水溝も設けられていた。

● **モヘンジョ＝ダロ出土の印章** 一辺が2～5cmの凍石製の印章で、商業用が護符に使用された。牛や象などの動物と共にインダス文字が刻まれているが、未解読である。



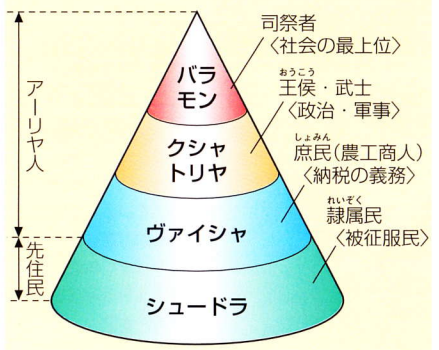
2 アーリヤ人の侵入



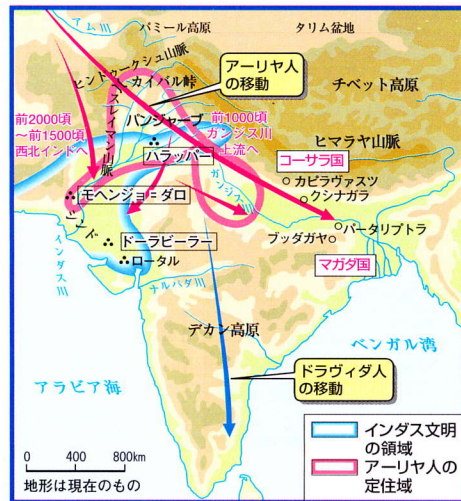
● **カイバル峠** パキスタン北西部の峠で最高地点の標高は1027m。古来、西アジアとインドとを結ぶポイントであり、アーリヤ人、アレクサンドロス大王、ムガル帝国の建国者バーブルなどもこの峠を越えてインドに侵入した。

●カースト制度

● **解説** 家系・血族を意味するポルトガル語のcastalに由来するインド特有の身分階層制度(ヴァスコ＝ダ＝ガマー行がこうよんだ)。ヴァルナ(色)とジャーティ(出自)により構成される。白い皮膚のアーリヤ人が黒い皮膚の先住民を征服・差別化したことが原型で、4ヴァルナが生まれた。各ヴァルナは時代と共に細分化し、職業と結びついたジャーティから構成されている。ジャーティの数は現在4000とも5000ともいわれている。



3 統一前のインド(前7～6世紀)



● **ジャイナ教**

● **ジャイナ教の僧** ジャイナ教はバラモン教の神々を否定する無神論に立ち、カーストも否定し、おもにヴァイシャに広まった。動植物・大気・地・火・水に靈魂の存在を認め、不殺生・不妄語・不婬・不飲・不邪淫・無所有の五戒を守る厳しい修行で解脱をめざす。修行者は小虫を殺さないよう箒で地面を掃いて歩き、マスクをつける。商人や金融業者に信者が多い。



仏教 釈迦の一生 (P.48)

— **ガウタマ＝シッダールタ(仏陀)** (前563頃～前483頃) —

● **誕生** 4月8日、ルンビニの園で生まれる。父はシャカ族の王シュッドダナ、母はマーヤー。母は七日後に産褥熱で死去。叔母にカピラ城で養育される。

● **29歳** 人生の悩みの解決を求め出家。断食など難行苦行を行う。

● **35歳** ブッダガヤの菩提樹の下で瞑想のすえ、悟りを開き、**仏陀**となる。

● **80歳** 2月15日、クシナガラの沙羅樹の下で枕を北に、右脇を下にして永眠(涅槃)。

○ペナレス郊外のサールナート(鹿野苑)で初説法。以後45年間布教の旅を続ける。

A 現代と意味が異なる仏教語

有難い	善行を積み、人間に生まれ変わる	感謝
億劫	極めて長い時間	めんどう
我慢	自信をもつこと	耐えること
出世	出家	地位を高めること
涅槃	仏道を求める楽しさ	(つまらない)趣味

B 釈迦に関する地名

●現代南アジアの宗教分布

南アジア諸国はヒンドゥー教・仏教・イスラム教の三大宗教が混在し、複雑な宗教・政治問題を抱えている。とくにインドでは、これら3宗教にシク教やジャイナ教など多くの宗教が絡み合い、1947年のパキスタンとの分離独立後も、マハトマ＝ガンディーの暗殺(1948)に象徴される国家要人暗殺(P.223)コ、カシミール帰属問題(住民はイスラム教徒、藩王はヒンドゥー教徒)やスリランカのタミル人(ヒンドゥー教徒)分離独立運動など種々の問題が発生している。

●路上で休む牛(デリー) ヒンドゥー教では、シヴァ神の乗り物である牛は神聖で殺すと重罪。



1 古代インドの推移 (P106 1年)

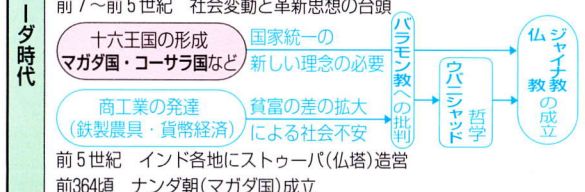
インダス文明期

- 前2500頃 ハラッパー・モヘンジョ＝ダロ
- インダス川中・下流域に約60の都市が形成 (ドラヴィダ人の都市文明?)
- 青銅器文明・計画都市・彩文土器・印章(インダス文字)

前2000頃 アーリヤ人(印欧語系), 中央アジア方面より移動開始

ヴェーダ時代

- 前1500頃 アーリヤ人, パンジャブ地方(西北インド)に侵入
- 「リグ＝ヴェーダ」(インド最古の文献)形成
- 前1000頃 アーリヤ人, ガンジス川流域に移動, 定着
- 鉄器文明・米・小麦の栽培。バラモン教とカースト制度の成立



前5世紀 インド各地にストゥーパ(仏塔)造営
前364頃 ナンダ朝(マガダ国)成立

マウリヤ朝(前317頃～前180頃) 都 **パータリプトラ**
前317頃 **チャンドラグプタ** が建国

アショーカ王(阿育王) (位前268頃～前232頃) (P240 4史)

- ダルマ(法: 人間の普遍的倫理)による支配
- 石柱碑・磨崖碑設置 ●第3回仏典結集による上座部仏教の成立
- 上座部仏教の南伝(マヒンダのスリランカ布教)

前180頃 マウリヤ朝の崩壊
前1世紀 サカ族(イラン系)の侵入

クシャーナ朝(後45～240頃) 都 **プルシャブラ**
後45 イラン系クシャーナ族が建国

カニシカ王 (位130頃～170頃)

- 第4回仏典結集と大乗仏教の確立
- ナーガールジュナ(竜樹)の仏教研究
- ガンダーラ美術の隆盛

240頃 ササン朝ペルシアにより崩壊

サータヴァーハナ(アーンドラ)朝 (前1世紀～後3世紀中頃)
ドラヴィダ人の建国
バラモン教の復興
独特の仏教美術
『マヌ法典』の原型形成
ローマ・東南アジアとの季節風貿易

グプタ朝(320頃～550頃) 都 **パータリプトラ**
320頃 **チャンドラグプタ1世** が建国

チャンドラグプタ2世(超日王) (位376頃～414頃)

- 東晋僧法顕の来朝
- サンスクリット文学(カーリダーサ「シャクンタラー」「メーガドゥータ」) 叙事詩「マハーバーラタ」「ラーマヤナ」完成
- グプタ美術(アジャンター・エローラ石窟寺院)
- 十進法による数字の表記・ゼロの概念
- ヒンドゥー教の確立・『マヌ法典』の完成

5世紀中頃 ナランダー僧院建立
5世紀後半 エフタルの侵入により衰退

ヴァルダナ朝(606～647) 都 **カナウジ(曲女城)**
606 **ハルシャ＝ヴァルダナ王(戒日王)** が建国, 仏教保護

- 唐僧玄奘の来朝(ナランダー僧院で学ぶ)
- 仏教の衰退とヒンドゥー教の発展

7世紀後半～ 諸王朝に分裂



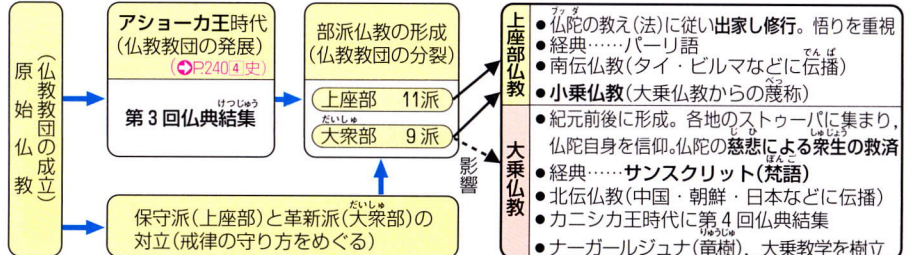
●石柱碑柱頭 法輪は仏法を象徴。インド国旗の中央の図柄は法輪とチャルカを表す。高さ212cm, サールナート博物館蔵



2 古代インドの統一国家の興亡



3 上座部仏教と大乗仏教の形成



●サンチーの塔門
ストゥーパの周囲には4つの塔門が建てられ、仏陀の伝説と本生(前世の物語)の彫刻が写実的である。

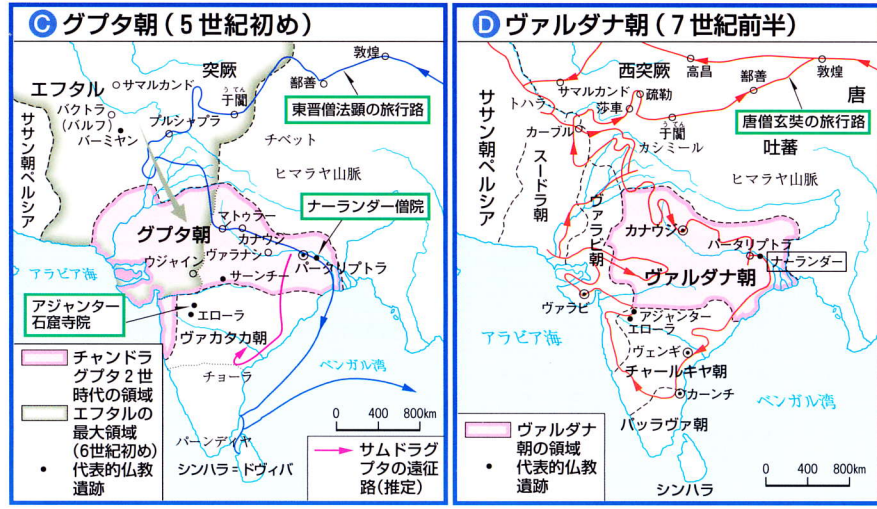


●ガンダーラ菩薩像
クシャーナ朝において、ヘレニズム文化の影響を受け、初めて仏像が造られた。カールした頭髮・髭・高い鼻・ギリシア的な衣服が特徴である。(P333 5図)

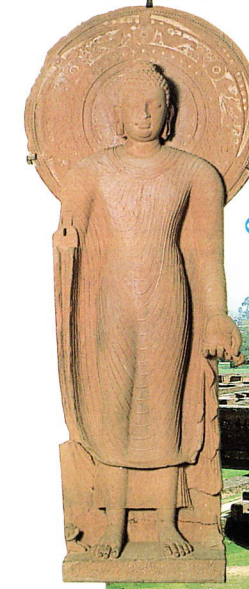
●サンチーのストゥーパ
アショーカ王が建立し、後に増築された。釈迦の舎利(遺骨)を納めるための覆鉢型の塔。塔の上には日傘がついている。日本の五重の塔などの起源。また卒塔婆は、ストゥーパを語源とする。高さ17m, 基部直径37m



4 インドにおける宗教・哲学



宗教	バラモン教	ウパニシャッド哲学	仏教	ジャイナ教	ヒンドゥー教
成立・始祖	●前10世紀頃 自然を神格化して崇拜	●前7世紀頃 バラモン教の形式主義に対する内部革新	●前5世紀頃 ガウタマ=シッダールタ(尊称: 仏陀・釈迦牟尼)	●前6~5世紀頃 ヴァルダマナー(尊称: マハーヴィーラ)	●紀元前後に成立 グプタ朝期に確立 農村を中心に浸透
教義	●アーリヤ民族の繁栄と除災招福を祈る賛歌を集めた『ヴェーダ』が聖典 ●犠牲を捧げ、祭式で神々を祀る(祭式万能)	●大宇宙の本質ブラフマン(梵)と個人の本質アートマン(我)とが同一(梵我一如)であることを正しく認識することで輪廻を脱することができる(解脱)	●現実の人生を苦ととらえる(四苦) ●その苦の原因は万物の真実の姿(縁起)についての無知(無明)にあることにより輪廻(悟り)できると説く	●肉体的苦行の実践による靈魂の浄化 ●生命の絶対尊厳(不殺生)と自己救済をめざす修行により解脱	●バラモン教に土着信仰が融合。特定の始祖・統一的教義はない ●『ヴェーダ』が根本聖典。靈魂不滅を信じ輪廻からの解脱を求める。三大神(シヴァ神・ヴィシュヌ神・ブラフマー神)
意義	バラモン階級が祭儀を独占。カースト制度と一体化し自己保全	呪力を否定し、知による救済を主張した世界最古の哲学的思想。ドイツ観念論哲学に影響	クシャトリア階級に支持され、統一国家(反カースト・反部族主義)の精神的支柱とされた	ヴァイシャ(特に商人)が支持。現在300万近い信者がいる	現在インドの83%が信者。カースト制度と結合し一般民衆に浸透

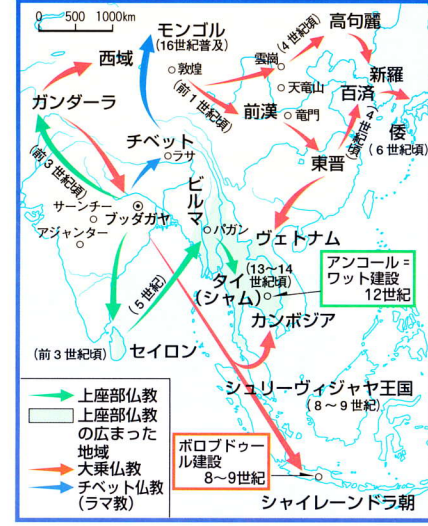


アジャンター石窟寺院(左)と菩薩像(右)
前1世紀から7世紀にかけて開窟され、29の窟院がある。1817年、イギリス人が偶然発見。室内の壁画は純インド風のグプタ様式で描かれた仏教説話図が多い。この菩薩像は5~6世紀に描かれ、気高さとともに妖艶さが表されている。壁画は、シルク=ロードを経て2世紀の後、法隆寺金堂の壁画へと姿を変えた。



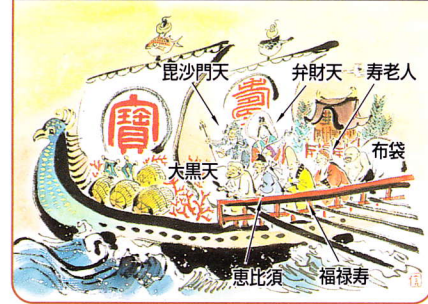
法隆寺金堂壁画
ナーランダー僧院跡
グプタ朝時代の5世紀に建立され12世紀まで仏教教学の中心として繁栄。12世紀末にイスラム教徒により破壊され廃墟と化した。法頭が渡印した時には建立されていたが、玄奘が6年間をここで過ごした7世紀前半には、約1万人の学僧が研究に励んでいた。

仏教の伝播



七福神に入ったヒンドゥー教の神

- 大黒天(豊作神) ← ヒンドゥー教のシヴァ神(生殖神)
- 毘沙門天(戦勝神) ← ヒンドゥー教のクペーラ神(福德神)
- 弁財天(学芸神) ← ヒンドゥー教のサラスヴァティー神(幸福神)
- 福祿寿(長寿・徳望神) ← 中国道教の神、南極老人か泰山の神、泰山府君(長寿・徳望神)
- 布袋(宗教・福德神) ← 中国唐代末期に実在した僧「契此」
- 恵比須(大漁神) ← 日本の伊弉諾尊(伊弉冉尊の三男)



ヒンドゥー教

ヒンドゥー教は一般民衆の生活に深く浸透している。ガンジス川中流の聖地ヴァラナシ(ベナレス)には全国から巡礼者が訪れ、沐浴する。沐浴により一切の罪・汚れから浄められると信じられている。濁水も教徒には神聖である。

踊るシヴァ神像(破壊と創造の神)
12c チョーラ朝 高さ95cm
ニューデリー国立博物館蔵

